

復活へ

大和川の挑戦

「日本一汚い川」からの脱却

昨年11月に県が中心となつて設立された「大和

課が本年度から始めた「ほとたるの里づくり事

つといえる。大和川の支川、飛鳥川

飛鳥川でのホタル鑑賞の前に屋内会場に集合。島田昌則理事長のあいさつなどに続いて、中学校教諭、元教諭の会員らがホタルの生態、飛鳥川の様子などを分かりやすく解説。自然との共生を訴えた。

加した。

飛鳥川でのホタル鑑賞の前に屋内会場に集合。島田昌則理事長のあいさつなどに続いて、中学校教諭、元教諭の会員らがホタルの生態、飛鳥川の様子などを分かりやすく解説。自然との共生を訴えた。

盛況のホタル鑑賞会

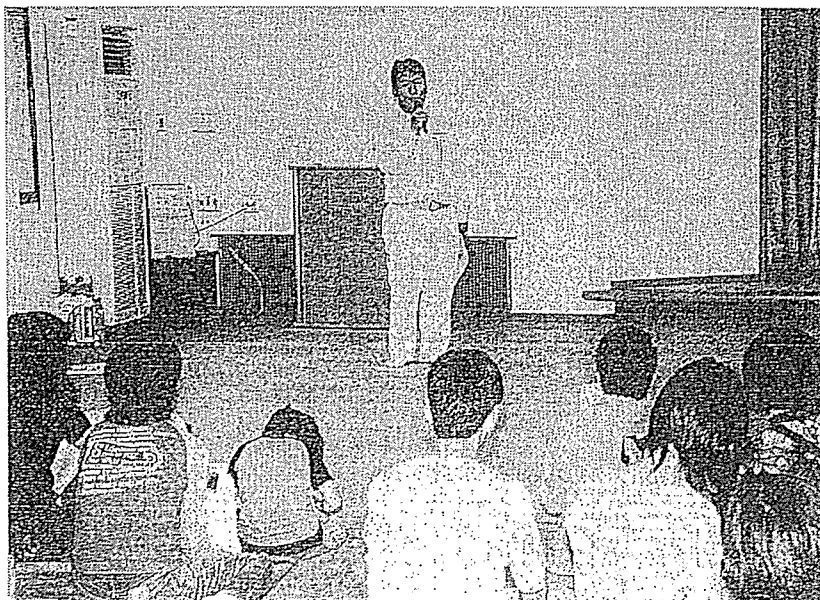
川清流ネットワーク」。大和川の水質改善のためには「行政だけでなく、NPO、住民団体や企業を含めた取り組みを」としているのが、時代の流れに沿った新しい視点だ。

業」。水路や川の水をきれいにしてホタルの飛び回りをと県民の意識を高めてもらうためNPO「ASUKA自然塾」に委託して6月13日にホタル鑑賞会を開いた。これもNPOとの協働で水質改善を啓発する試みの一

流域の会社員、教師ら有志が3年前に結成したのがASUKA自然塾。同塾のホタル鑑賞会は4回、目だが、県からの委託事業としては初めてで、今回は900人近くの応募があり、抽選で家族連れなど100人の県民が参

夕食をはさんで、いよいよ観察会に出席。NPOメンバーによる案内で4組に分かれ観察スポットへ。ほとんどの人が、飛んでいるホタルを見るのは初めてのようだった。手の届く距離で点滅す

県がNPOに委託



NPOとの協働で開かれたホタル鑑賞会での説明の様子＝6月13日、明日香村内

るホタルの光は参加者について詳しい話を聞いて大きな感銘を与えたようだった。「ホタルの生態動が深かった」などと感じ、環境を考えてもらうきっかけづくりになれた。NPOと行政の協働をいろいろなかたちで進めていきたい」と成果を話していた。

※ ※ ※
7月20日は「奈良県山の日・川の日」。山と川に親しむイベントが多数開催される。詳しくは県河川課、または大和川清流復活ネットワークのホームページまで。
※ 毎月1回、下旬に掲載 ※

当記事を奈良新聞社に無断転載することを禁じます。